

今日のみことば

□ 3月26日(日) コリントニ 3章

パウロは自分の真実について弁明し、神の神の福音の使徒にふさわしいと主張すると、反対者は自己宣伝だと言う。しかし彼がいかなる人物であるかはコリント教会が証言する。

□ 3月27日(月) コリントニ 4章

パウロは数々の苦難に直面し、がっかりしてしましそうな状況にあった。彼よりはるかな苦しみに直面された復活のイエスのいのちが内に働いて、日ごとに新しくされていった。

□ 3月28日(火) コリントニ 5章

キリスト者は死を恐れない。生きるも死ぬも、私たちの心からの願いは、主に喜ばれるものとなることです。肉体を宿としている時も、離れている時も、私たちは主のものです。

□ 3月29日(水) コリントニ 6章

キリストの使者として、パウロは「神と共に働く者」の一人として、福音にふさわしい生活をし、神の恵みを、キリストの死を無駄にしてはならない。キリストのため生きるものとなる

□ 3月30日(木) コリントニ 7章

コリント教会で起きた問題の解決が、願い通りであったことにパウロは心から喜んだ。これは人々が、神のしもべを通して語られる聖霊のみ声に耳を傾けたからである。

□ 3月31日(金) コリントニ 8章

マケドニアのキリスト者よく献金をした。貧しい上に、試練を受けていたにもかかわらず、自発的に実力以上に献金をしていた。彼らは献身をする前に自分自身を神に捧げていた。

□ 4月1日(土) コリントニ 9章

コリント教会の人たちの献金について、しぶしぶでなく心からの自由意志であることを願った。生活を豊かにして下さった神の恵みに従って感謝してささげるべきことを勧める。

ろ ば No. 1808

2017年 3月26日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

使徒言行録 4:20

わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです

私たちは受難節を迎えてしっかりと主イエスが歩まれた道を心にとどめさせていただきま。イエスの歩みは、ゴルゴダの丘への歩みでした。そのイエスを、私たちは「神の子メシア(救い主)」と告白するのです。そして教会はそこに立つのです。世間的には全く受け入れられがたいことです。しかし私たちはそこに立ち、このことを声を大にして語るのです。ルカはその証言を書き記して「テオフィロ」に献呈したのです。この人物については諸説がありますがルカはしっかりと、イエスとその教えが、どのように伝えられ広がり行っったかを告げました。どのような迫害があっても、確実に伝えられてきた福音を私たちも聞かせていただくのです。それは喜び

の日々でした。イエスがここで語られた言葉は「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリヤの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」でした。人々はイエスを通してしっかりといのちの道を歩みました。

使徒たちが伝え、教会が伝える証言は、イエスの十字架の死の出来事です。とても喜びの出来事と言えるものではありません。けれどもこの出来事が伝えられるところでは、神を讃美する声に満ちあふれました。ペンテコステの日、ペテロが説教した時の様子を聞いて下さい(使徒2:14-42)。それはそれは驚くべき光景でした。「ペテロの言葉を受け入れた人々はバプテス

マを受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった」とあります。何がそこにありましたか。イエスは教えと行動を通して、しっかりと父なる神を明示して下さいました。ペテロは「イスラエルの人たち、これから話すことを聞いて下さい。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です」と告げて、イエスの教えと、なされた力ある不思議な業を証言しました。しかし人々はこのお方イエスを十字架につけて殺した。神はこのイエスを死からよみがえらされて、私たちの罪の贖いとしてくださったのです。この驚くべきペテロの説教に人々は驚愕し、先を争ってペテロからバプテスマを受け、しっかりと希望に満ちた人世へと彼らは踏み出したのです。

そこでこの私たちのことです。聖書が口酸っぱく、私たちの罪を指摘しても、今ひとつ私たちの中で共鳴できていない。それが私たちの神信仰であろうと思っています。私たちはしっかりと万物の主であるお方「初めに、神は天地を創造された」お方を告白し、語らなければなりません。そのお方の愛が、イエスによって私たちにもたらされた、計り知ることが出来ないご愛によって、私たちはここにあるのです。イエスは天に上げられる時、「あなた方の上に聖霊が下ると、あなたがたは力を受ける」と言われました。この大いなる喜びは聖霊の賜物です。弟子たちはそのために、一つところに集まって祈りました。そして聖霊をいただきました。私たちは心を合わせて祈ります。かみのご愛に感謝して、安心を得たことを語ります。弟子たちはどれほど激しい迫害の中にあっても語らないわけにはいかない。「ほかのだれによっても救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです」(使徒4:12)と証言するのです。

次週の聖書・説教

ヘブル12:1-2

十字架の喜び

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コリント第一14:40、ヤコブ5:13-16 整然として

私たちは病気になったとき、その不安と痛みで混乱してしまうことですが、そのような人たちにイエスはどうアドバイスをされたのでしょうか。言葉を見いだすことは出来ませんが、そこでイエスが対応された様子を私たちは知っています。弟子たちが気をもむほど落ち着いておられました。

ヤコブは「祈りなさい」と言います。「あなた方の中で病気の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい」と言いました。私は信仰者としてどのような状況の中にあっても、主が働いて下さることを主に祈り求めることが大事なのです。私は「オリーブ油を塗って」とのヤコブの助言は大切に聞きます。ほんとうに貧しい治療した出来なかった時代です。大切なオリーブ油を塗ってと言う言葉の内に私は、最善の治療をして、主のいやしの御手をを祈り求める。私たちのとるべき確かな道と言うことです。



Read God's Word.